

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	就労準備型 放課後等デイサービス じぶんいろ			
○保護者評価実施期間	2026年1月5日		～	2026年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	31名	(回答者数)	29名
○従業者評価実施期間	2026年2月10日		～	2026年2月15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数)	9名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月1日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもたちが、友達や職員と関わりながら楽しく過ごすことができるように活動内容と支援を工夫すること	・子どもたちが、友達と共に活動し、特性に応じて関わるように、多様な遊びや活動を取り入れている。 ・職員は、子どもたちとの関わりを深く信頼関係を築くことができるように、個の特性に応じて声をかけたり一緒に活動したりする。	・子どもたちの実態や特性、希望に応じた活動内容を工夫するために、活動の様子を観察したり、興味・関心について把握したりする。 ・職員が子どもとの関わりの中で得た情報は、打合せの機会に全職員で共通理解を図り、活動内容の計画や支援に生かせるようにする。
2	子どもたちが、自分の興味や適性を見つけるために、職場での見学・体験活動の設定	・月に一回程度、一般企業やB型就労支援を対象に見学・体験活動を実施し、働く人たちが仕事に取り組む様子を見学したり、経営者の思いや工夫について話を聞いたりする機会を設定している。 ・子どもたちが、体験を通して、「働く」ことを実感し、自分の適性や可能性について考えたり気付いたりするきっかけになるように、できるだけ職場での体験活動を設定している。	・一般企業での見学・体験の機会を増やすことができるように、活動の趣旨を丁寧に伝え、理解を得られるようにしたい。 ・職場見学・体験が、子どもたちにとって、より主体的な活動になるように、活動前に訪問先の職場の仕事の内容や訪問のマナーについて理解するための活動を設定する。 ・訪問した職場との連携を深め、可能であれば、時期や見学する場面を変えながら、見学・体験の機会を重ねるようにしたい。
3	子どもたちの、心身の成長や「生きる力」を育むための体験活動への取り組み	・子どもたちが興味・関心のある体験活動に取り組みながら、体験やできることを増やしたり、周囲の人との関わりを楽しんだりすることをねらいとして、夏季休業、冬季休業などの長期休業や土曜日に、調理、季節の製作、公共交通機関の利用、公共施設の利用などの体験活動を取り入れている。	・体験活動を楽しかった体験だけで終わらず、自分のことを知ったり、日常生活に生かしたりすることができるように、初めて体験したこと、挑戦してできるようになったこと、うまくできなかったからもう一度やってみたいこと、体験を生かして家の人と一緒にやってみたいことなどについて、振り返りの活動に取り組むようにしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・パソコンの活動で、個の実態に応じてスキルを向上させること	・小学1年生から高校3年生までの児童、生徒が利用するため、発達段階が幅広く、パソコン作業への興味・関心や技能の実態差も大きい。	・タイピングについては、発達段階に応じて取り組むことができるように、タイピングアプリを自分で選択し、時間を設定して取り組む習慣が定着してきたので、その活動を継続するとともに、例えば、写真の取り込み、編集、イラストの挿入などの作業を取り入れて名刺やカレンダーを作ったり、プログラミングの基礎を練習したりする活動にも取り組ませたい。
2	・職場見学・体験を生かした活動の展開	・職場見学・体験を行うためには、移動を含めてある程度の時間を要することから、限られた利用時間の中で、振り返りの活動が不十分になっている。	・限られた時間以内で、発達段階に応じた方法で振り返りに取り組めるように、活動内容を工夫する必要がある。考えられる活動として、パソコンのワープロ機能を活用して感想文をまとめる、職員が撮影した写真をもとに、何をしている場面かを思い出しながら簡単な解説文を書く、訪問した職場の人にお礼の手紙を書くなどが挙げられる。振り返りの活動を掲示物にまとめることができれば、訪問できなかった子どもへの報告としても活用できる。